



NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

「大刀剣市」開催見合わせについて

全国刀剣商業協同組合 理事長 深海 信彦

全国刀剣商業協同組合では、主要事業である「大刀剣市」を来る十一月十九、二十一日の三日間、東京美術倶楽部において開催することを決定し、理事・監事全員で構成する大刀剣市実行委員会にて鋭意、準備を進めてまいりました。しかしながら、熟考審議の結果、実施が不可能との結論に達しましたので、お知らせします。

十一月の開催を断念せざるを得ない最大の理由は、新型コロナウイルスに対する万全な感染対策を実施できる見通しが立たないということです。

実行委員会では、開催に当たり最低限これだけは徹底順守していたべく、対策案を立てました。以下に事前の対策と、開催見合わせの理由を記します。

- ①検温、手指消毒、マスク着

用、組合が毎日配布する手袋着用（お帰りの際には蓋付きごみ箱に廃棄する）

②会場内の特定の場所や休憩所が密にならないように、人数などの配分・制限を行うべく、出店者全員が交代で見回りを実施し、ディスタンスを取ることをお願いする

③入場受付を二カ所に分け、三階を前売り券所持者、四階を当日券購入者のそれぞれ専用とし、駐車場からの入場者に対しては人員を配置し監視する

一方、出店組合員に対しては、

①搬入や手伝いの人員を含め販売等に従事する組合員や家族、従業員は、搬入等で入場する三十分前に、あらかじめ組合が購入し必要数を出店者に配布する抗原検査キットを

使用し、陰性であることを確認の上で入場する。さらに、開催初日の開店三十分前に同様の抗原検査を行い、陰性を確認して営業を開始する。

検査結果が陽性の場合は、その本人は入場できない。その店舗の従事者全員が陽性の場合はそのブースは閉鎖とし、出店料は返還しない。ただし、抗原検査で陽性が出て、あらためてPCR検査を受けて陰性の証明が得られればこの限りではない（この出店規定は、東京美術倶楽部で十月十五日からプレビュー日を含め四日間開催される「東美特別展」の出店者に求められるものに準じている）

②コロナ禍の開催には例年以上の人員と費用を負担することとなる。その内訳は、入り口が二カ所ある・密の回避や、マスクや手袋着

用の徹底のための見回り、声掛けが必要

・地下駐車場や貨物エレベーターからの出入の監視
・並行して、理事は交代でお宝鑑定作業に従事
・警備会社を増員要請をする
と、現行五人五十万円の費用が増額となる

以上の対策を取るとなると、実行委員会だけでは人員が足りないため、出店者全員が交代制で業務の負担をお願いせざるを得ず、皆さまにご理解を頂いた上で、これらのことが確実に実行できることが開催の条件でした。どのような対策を立てても完全に感染を防げるものではないかもしれませんが、政府認可の組合としては、せめて同じ会場で行われる他の展示会と同じレベルでの対策を講じた上での開催を目指し、常務理事会や実行委員会

ではその実現性を中心に議論が展開されました。

結果として、自主平等が原則の組合には強制力が無く、どのような取り決めも完全には実施することは不可能であることに、現在のような完全な感染対策を行うことが条件であるこの時期の開催は見送るということになりました。

開催を見合わせるに至った具体的な内容としては、出店者の負担が増えることのほか、実行委員会や理事会は取り決めを守るようにお願いすることはできても、同じ美術倶楽部を会場として開催する他の展示会のように違反者に閉鎖や退場を命じる権限は無く、あくまでも性善説に基づいて、自主性を重んじることが前提になっているということです。任意団体や株式会社であれば、実行責任者が非常時においては強い措置を決定し、出店者に店出規約を守るよう誓約書を求めることも可能です

が、全員平等の組合では指導権限も強制力もありません。このような不徹底の下で開催し、万一感染拡大の要因となるようなことがあれば、多方面への影響だけでなく、次回の開催さえ危ぶまれます。また、抗原検査キットの購入費等の感染対策費の増加は、財政面での圧迫も予想されます。増額分を出店者の負担とするか、もしくは組合負担とすれば、出店しない百

余名の組合員の賦課金からの出費となります。

このような理由から、九月二十八日の理事会において、委任状一名を含め十五名の出席理事全会一致にて開催を見送ることとなりました。実行委員会といたしましては、開催しなかったことに対する非難はいかようにも甘んじて受け入れる所存です。それよりも、ご来場者や出店者、関係者の皆さまへの感染リスクを無くすることを選択いたしました。

なお、延期するとすれば代替案として、会場となる東京美術倶楽部の空室状況や、政府の方針、今後の感染者数の収束状況などを見計りながら検討する必要がある、理事会、実行委員会ではさらに審議を重ねているところであります。

また、九月三十日現在、集団感染を懸念しての出店辞退一店舗、出店再検討中三店舗の報告を受けておりますが、それらの店舗を含め既にウェブ上では商品紹介の用意が整いつつあり、公開されればお客さまから各店に商品の問い合わせがあることと思えます。大刀剣市同様の対応でご商売に繋げていただければ、願っております。

なにとぞ今日の状況をご賢察の上、ご理解を賜りますようお願いを申し上げます。

（本稿は九月三十日付で大刀剣市出店予定者に送付したものです）

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定

(株)城南堂古美術店

代表

田中 勝憲

〒153-0051
東京都目黒区上目黒四-3-110
TEL 03-371-0067
03-371-0067
03-371-0067
FAX 03-371-0067

刀 買取 委託

e sword

〒350-1115 埼玉県川越市野田町 1-4-19 1F
TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407

刀 通販サイト
www.e-sword.jp
日本刀 イーソード 検索
mail:info@e-sword.jp
イーソード
(株) e-sword 平子誠之

刀剣・書画・骨董

和敬堂

土肥豊久・土肥富康

〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511

http://wakeidou.com/

刀剣 高吉

古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!

連絡先 090-8845-2222

代表者 高 島 吉 童

東京都北区滝野川 7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116

www.premi.co.jp

銀座日本刀ミュージアム

泰文堂

〒104-0061 東京都中央区銀座 6-7-16
岩井ビル 2 階

(株)銀座泰文堂 代表 川 島 貴 敏

TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367

http://www.taibundo.com

組合こよみ (令和3年7～8月)

- 7月2日 銀座長州屋において『刀剣界』第60号編集委員会を開催（再校）。出席者、深海理事長・伊波副理事長・嶋田常務理事・生野理事・土子民夫氏
- 9日 LEAGUE銀座において常務理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・飯田理事・生野理事・土子氏
- 12日 東京美術倶楽部において『全刀商』編集委員会を開催（初校）。出席者、深海理事長・伊波副理事長・清水専務理事・綱取常務理事・飯田理事・生野理事・持田理事・土子氏
- 16日 東京美術倶楽部において「大刀剣市」第3回実行委員会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・持田理事・冥賀監事・事務局濱崎氏
- 26日～8月7日 藤代スタジオにてウェブカタログ用撮影（刀剣）
- 29日 第一ホテル両国における（公財）日本美術刀剣保存協会「現代刀職展」表彰式に深海理事長（来賓）と生野理事（取材）が出席
- 8月6日 組合事務所において常務理事会開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事。「大刀剣市」ウェブカタログ進捗状況を飯田理事より報告。『全刀商』最終校正に生野理事・持田理事・土子氏が参加
- 10・11日 新橋プラザビルにおいてウェブカタログ用撮影（刀装・刀装具・火縄銃・甲冑）
- 18日 組合事務所において綱取常務理事と持田理事が刀剣の評価査定
- 19日 晴雅堂清水において「大刀剣市」チケット・DMについて打ち合わせ。出席者、東京製版(株)遠山氏・清水専務理事・嶋田常務理事・事務局有山氏
- 23日 事務局において常務理事会ならびに「大刀剣市」実務者会議を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・生野理事・持田理事・冥賀監事・大平将広氏・服部一隆氏・土子氏



飯田高遠堂 太刀(折刀型) 兼中国匠人直次作(寄贈重宝刀剣)

画面見本

た場合のリスク（廃棄に伴う多大な損失は組合員の負担となる）を第一に考慮した対策であり、また地域によってカタログ到着にタイムラグが発生するという問題を解決し、近年多くが来場される海外の愛好家へのオンラインでの訴求など、多数の利点を積極的に鑑みての挑戦となります。

本紙が皆さまのお手元に届く時点では、システムは相当進展しているはずですが、内容のご案内とともに、来年以降に参加を予定される組合員の皆さまへの情報共有の一助として、カタログ掲載品情報のオンラインでの入力方法をご紹介します。

■カタログ掲載品情報入力について

- ①各店舗に送付される入力シートへアクセス
- ②ご自身の Google アカウントへログイン（お持ちでない方は、別途ご案内に則り、無料でアカウントの作成をお願いします）
- ③シート「会社情報」にて、C 列の説明をご確認いただきながら、B2 および B4 から B9 まで、正確な情報を記入
- ④（屋号のロゴデータをお持ちの方のみ）シート「会社情報」にて、B3 に記載の URL へアクセスし、ロゴデータをアップロード（ファイルをドラッグ＆ドロップするとアップロードができます）



担当者「実は、表示されたデータを私が読み違えまして……相すみません」

担当者はひたすら謝っていた。が、どうしたらそんな読みになるのだろうか、というような間違いだった。申し送りに問題はなかったのだろうかと思った。

広島県も新しい担当者に代わったらしい。宇多国久という短刀の登録の内容確認の電話をした。何の問題もなさそうな登録証だった。が、担当者は登録証の写真をメールに添付して送ってほしいと言う。明らかにはないが、何か

重大な不備があったらしい。やむなく登録証の写真を撮り、メールに添付して送信した。

ところが、メールが開かないという。再度送り、また開かない、こんなことを繰り返した末、結局登録証の内容には何ら問題もないことがわかった。

わざわざ写真を撮影し、心配して……時間を返してほしいと思って……。これも不慣れ故のことだが、やはり申し送りに不備があったのかも知れない。

新年度の混乱を少なくするためには、どうしたらいいのだろうか。例えば、担当者が短期間に大幅に入れ替わるのではなく、半分が残って半分が転属し、新任者に前からいるスタッフが指導する仕組みにすれば、年度初めの対応の混乱はかなり少なくなるのではあるまいか（そんなこと、やっていますよ！と怒られそうではある。ただ、毎年毎年のことなので、ついつい釈迦に説法のような話になってしまった）。

実際、何らかの対策を講じている自治体もたくさんあると思う。神奈川県教育委員会の文化遺産課は、聞くところによれば、B氏のみ残って、スタッフが入れ替わったらしい。事務作業に知悉した熟練の担当者が残っていれば、業務に支障を来すことは少ないし、B氏がいることで、利用者も安心である。千葉県にはY氏という、刀剣に理解の深い担当者がおられた。転任後も円滑に業務が引き継がれるように、しばらくは刀剣登録業務にも関わります、というような話をしておられたように記憶している。

ただし、地方の実情は厳しいの

アオバ企画(株)

高橋 一

〒130-0012
墨田区大平四一九二ー一三〇八
TEL 〇三ー三六二二ー二二五
FAX 〇三ー三六二二ー二二五
メール aobakk@pj8-so-net.ne.jp

都道府県の教育委員会の担当者も、刀剣類の所有者変更手続き業務のみならず、たくさんの仕事を抱えておられることは十分に理解できる。が、諸々工夫をして、「最近の銃砲刀剣類登録担当者の方々は詳しくなりましたね」と思わせるくらいの円滑な事務に期待したい。（登録証問題研究会）

かもしれない。登録審査に携わっている、ある人によれば「新任の担当者に審査員がどれだけキチンと話ができるか。都会はともあれ地方に、昭和二十六年から今日までの刀剣登録業務、登録台帳の内容について、正確に把握できる人がどれだけいるだろうか」と担当者の知識不足を問題にしていた。

担当者の申し送りが正しく行われ、年々歳々の事例の蓄積と情報の共有がなされれば、お互い業であるし、何より文化財の保護に役立つ。厄介な案件に対応するべく、諸データをデジタル化して保存し、ケース・バイ・ケースで引き出して対応できるようにすれば、少ない人数でも対応できるのではあるまいか。

日本刀の
江戸屋

名品・名刀を販売

店主 小暮 昇一

〒529-1315
滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-11
TEL 074-914-2127
携帯 090-3162-1764
http://www.goushyu-a-nihontou.com

「登録証問題」を考える 27

事例 39 年度変われば 担当代わる

三月から四月……卒業し、進学、就職の季節である。東京都教育委員会も、ここ数年お世話になった銃砲刀剣類登録担当のA氏が「卒業」してしまった。三、四年おられただろうか。いろいろな案件でお世話になった。本当に感謝している。

さて、新年度。毎年、いささか不安になる対応をされる場合が少なくない。東京都も過日、登録証の内容確認をした際、一瞬ヒヤリとさせられるやり取りがあった。

担当者「ほとんど一致していますが、一部、異なりますねー」

私「ほんとですか？ どこですか？」

担当者「それはお答えできないのですが……」

登録証のコピーをファックスで送信することになった。しばらくして、電話がかかってきた。

担当者「あの、大変、失礼しました。問題はありませんでした」

私「それは、どういうことでしょうか？」

担当者「それは、表示されたデータを私が読み違えまして……相すみません」

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、**記事を募集しています**。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。



現代刀職展表彰式で挨拶する酒井会長



各部門で栄えある特賞を受賞された刀職の皆さん

特賞に続いて、各部門より優秀賞、努力賞、新人賞、入選の表彰が行われました。名前が呼ばれた受賞者は緊張した趣で次々と登壇し、表彰状が授与されると、会場からは拍手が沸き、お祝いムードに包まれました。それぞれの表情には、この晴れの日を迎えるまでの長かった努力が報われた喜びが現れていました。続いて、理事会において白銀師の飯山隆司さんが柄前の部の無鑑査に認められたとの発表があり、酒井会長から資格認定証の授与が行われました。

この後、審査員を代表して吉原義人氏(作刀)と柳川清次氏(研磨)から講評が述べられました。柳川審査員は、「技術的な技は日々の努力で必ず良くなっていくものです。でもその先に感性、感覚というものがあります。見識の高い方が持っているイメージは共通していて、これを磨くには良い刀を見て感性を磨くしかないのです。研磨した刀をもう一度見て、刀匠の個性と時代を表現できているかを考えることです」と指摘され、私も良い勉強になりました。

式典は一時半ほどで滞りなく終了となりました。閉会後は、和やかな雰囲気の中に記念写真の撮影となりました。受賞者の皆さんを写していて、あらためて若い刀職者の将来に期待をしたという気持ちになりました。また、数年前には見られなかった女性の受賞者が今年も目立っていました。女性の社会進出が話題になる昨今ですが、刀剣の世界も例外ではないようで、同慶の至りです。今年の表彰式は近年になく賑やかだった印象が強く、コロナ禍の状況下でも日本刀の世界は力強い歩みを重ねていることが感じられました。



(右から) 刀文協の阿部一紀常任理事・宮下武常任理事・かまたきみこ評議員・阿部聡一郎研師・高森邦彦事務局長とともに、当組合の伊波副理事長と筆者生野正

七月二十六日(八月一日は、公益財団法人日本刀文化振興協会が特設ブースで日本刀の伝統と文化について発信する)と聞き、その間に数回、取材に伺った。初めの二日間は、河内一平刀匠が講演と作品の展示に当たられた。たまたま訪れたお客さまもおられ、初めて見る日本刀の美しさに感嘆されていた。刀装具や刀剣にまつわる小品の展示販売コーナーも

くんに、「ごめんな。帰りたいよ」と声をかけることしかできなかった。そして、九月二週目のある日の早朝、動かなくなったカブくんを見つけた。その後、「カブくんの墓」と書いた墓標を作り、埋葬した。私と息子は大泣きし、どう慰めようかと夫はうろたえていた。さようなら、カブくん。大切な夏の友達。―後日談―息子は今年も虫捕りに行き、カブくんそっくりな雄のカブトムシを連れて帰ってきた。「カブミくん」と名付け喜んでいますが、説得の結果、三日間の逗留の後に山に帰っていたのだ。虫籠から出すと、嬉しそうに木を登っていく、姿を消した。元気で。

東京オリンピック開催中の七月二十九日、公益財団法人日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長)の「現代刀職展」表彰式が、第一ホテル両国において開催されました。当日は、来賓として高村正彦元外務大臣(日刀保名誉顧問)、甘利明衆議院議員(「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」共同代表)、文化庁・鍋島豊文化財第一課課長、当組合の深海信彦理事長のお三方が臨席されました。式典は午後一時半から執り行われました。初めに酒井会長から、刀剣文化を支える伝統技術の保護と普及、啓蒙という公益活動としての新作展であるとの講話と挨拶があり、続いて甘利衆議院議員と文化庁の鍋島課長から祝辞が述べられ、表彰式へと移りました。特賞ではまず作刀の太刀の部より、高松宮記念賞を受賞した滋賀県の北川哲士さんに、賞状と記念品が授与されました。続く薫山賞は熊本県の北村光宏さんが、寒山賞は愛媛県の藤田宗久さんが、日本美術刀剣保存協会会長賞は福井県の森國利文さんがそれぞれ受賞を果たし、賞状と賞杯と賞金、玉

鋼が授与されました。同じく短刀・剣の部では、薫山賞を千葉県の山下浩郎さんが、寒山賞を栃木県に加藤政也さんが受賞しました。研磨の鎚造の部では、特賞の木屋賞に兵庫県の井上聡さん、竹屋賞に千葉県の小川和比古さん、千葉賞に岩手県の菊池真修さん、薫山賞に東京都の神山貴恵さん、寒山賞に栃木県の枝松孝治さん、日本美術刀剣保存協会会長賞に鳥取県の柏木良さんが、それぞれ受賞しました。また平造の部では神山貴恵さんが日本美術刀剣保存協会会長賞に選ばれ、ダブル受賞となりました。白鞘の部からは、岩手県の永洞修さんが日本美術刀剣保存協会会長賞を受賞。刀装の部では、岐阜県の山田真也さんと新潟県の佐久間保男さんが日本美術刀剣保存協会会長賞を受賞しました。柄前の部は、日本美術刀剣保存協会会長賞を東京都の飯山隆司さんと前記の山田真也さんが受賞しました。また、白銀の部では日本美術刀剣保存協会会長賞を愛媛県の三島幹則さんと京都府の上野宏樹さんが受賞しました。

賞、努力賞、新人賞、入選の表彰が行われました。名前が呼ばれた受賞者は緊張した趣で次々と登壇し、表彰状が授与されると、会場からは拍手が沸き、お祝いムードに包まれました。それぞれの表情には、この晴れの日を迎えるまでの長かった努力が報われた喜びが現れていました。続いて、理事会において白銀師の飯山隆司さんが柄前の部の無鑑査に認められたとの発表があり、酒井会長から資格認定証の授与が行われました。

この後、審査員を代表して吉原義人氏(作刀)と柳川清次氏(研磨)から講評が述べられました。柳川審査員は、「技術的な技は日々の努力で必ず良くなっていくものです。でもその先に感性、感覚というものがあります。見識の高い方が持っているイメージは共通していて、これを磨くには良い刀を見て感性を磨くしかないのです。研磨した刀をもう一度見て、刀匠の個性と時代を表現できているかを考えることです」と指摘され、私も良い勉強になりました。

式典は一時半ほどで滞りなく終了となりました。閉会後は、和やかな雰囲気の中に記念写真の撮影となりました。受賞者の皆さんを写していて、あらためて若い刀職者の将来に期待をしたという気持ちになりました。また、数年前には見られなかった女性の受賞者が今年も目立っていました。女性の社会進出が話題になる昨今ですが、刀剣の世界も例外ではないようで、同慶の至りです。今年の表彰式は近年になく賑やかだった印象が強く、コロナ禍の状況下でも日本刀の世界は力強い歩みを重ねていることが感じられました。

七月二十六日(八月一日は、公益財団法人日本刀文化振興協会が特設ブースで日本刀の伝統と文化について発信する)と聞き、その間に数回、取材に伺った。初めの二日間は、河内一平刀匠が講演と作品の展示に当たられた。たまたま訪れたお客さまもおられ、初めて見る日本刀の美しさに感嘆されていた。刀装具や刀剣にまつわる小品の展示販売コーナーも

くんに、「ごめんな。帰りたいよ」と声をかけることしかできなかった。そして、九月二週目のある日の早朝、動かなくなったカブくんを見つけた。その後、「カブくんの墓」と書いた墓標を作り、埋葬した。私と息子は大泣きし、どう慰めようかと夫はうろたえていた。さようなら、カブくん。大切な夏の友達。―後日談―息子は今年も虫捕りに行き、カブくんそっくりな雄のカブトムシを連れて帰ってきた。「カブミくん」と名付け喜んでいますが、説得の結果、三日間の逗留の後に山に帰っていたのだ。虫籠から出すと、嬉しそうに木を登っていく、姿を消した。元気で。

公益財団法人日本美術刀剣保存協会
二〇二二年度「現代刀職展」表彰式を開催
東京オリンピック開催中の七月二十九日、公益財団法人日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長)の「現代刀職展」表彰式が、第一ホテル両国において開催されました。当日は、来賓として高村正彦元外務大臣(日刀保名誉顧問)、甘利明衆議院議員(「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」共同代表)、文化庁・鍋島豊文化財第一課課長、当組合の深海信彦理事長のお三方が臨席されました。式典は午後一時半から執り行われました。初めに酒井会長から、刀剣文化を支える伝統技術の保護と普及、啓蒙という公益活動としての新作展であるとの講話と挨拶があり、続いて甘利衆議院議員と文化庁の鍋島課長から祝辞が述べられ、表彰式へと移りました。特賞ではまず作刀の太刀の部より、高松宮記念賞を受賞した滋賀県の北川哲士さんに、賞状と記念品が授与されました。続く薫山賞は熊本県の北村光宏さんが、寒山賞は愛媛県の藤田宗久さんが、日本美術刀剣保存協会会長賞は福井県の森國利文さんがそれぞれ受賞を果たし、賞状と賞杯と賞金、玉

東京二〇二〇大会開催の機会を捉え、日本全国の伝統工芸や技術、特産品、さらに豊かな食の世界などを紹介するという趣旨で「東京都及び東京の産業等の魅力発信イベント発信委員会」が、七月十九日(九月五日、JR有楽町駅前の東京スポーツスクエア本館一階でイベント「TOKYO TOKYO ALL JAPAN COLLECTION」を開催した。



彫金の実演と解説に当たる泉公士郎氏

あり、関心を集めていた。三十一日には、刀匠の川崎晶平氏と彫金家の泉公士郎氏の講演が開催された。土曜日の午後ということもあり、会場は立ち見客が出るほどの盛況ぶりだった。日本の歴史と文化を語る上で、日本刀は欠かすことができない要素である。しかし、一般の理解を得る機会はまだで、私たち日本刀を生業にしている者からすれば、このようなイベントに参加されている刀職者の皆さんや関係者のご尽力に感謝しなくてはならない。この会期中、刀文協の役員の方々と、現代刀のニセモノが出回る現況について話す機会があった。ニセモノが出回れば、当然現代刀の市場価格にも影響が及ぶ。その被害は決して小さくない。そこで現在、刀文協では現代刀の真偽について鑑定し、正真鑑定証の発行を行っているという。存命の刀匠の作品であればその対象となるので、所蔵品等について検討してみたいかがだろうか。

西葛西店をオープン
美術刀剣松本は、七月十五日に東京メトロ東西線西葛西駅南口から徒歩一分の場所に東京西葛西店をオープンしました。JR東京駅から地下鉄東西線への乗り換えも含めて二十数分なので、遠方からでも至便です。店内二十坪に檜作りのガラスショーケース十二台を設置。「毎日展示即売会」をモットーに、お客さまに信頼され愛される、繁盛している刀剣店と評判になるように、社員一同精いっぱい頑張ります。どうぞ皆さま、ぜひお越しください! (松本義行)

美術刀剣松本東京西葛西店 TEL 03-3400-0088 東京都江戸川区西葛西六-1-31 4F ☎ 03-3645-0889
石井 理子
筆者は奈良県在住



石井 理子
筆者は奈良県在住

刀 剣 界

古聴
第四回

お店とは…

網取 譲一

前号に引き続き、もう少しだけ名和弓雄さんの話に付き合ってください。実は氏から新組合員たちへの遺言ともとれる言葉を俺はしたためておる。

組合員は、なにも何代も続く商店の店主だけではない。番頭から独立した持田理事のような方もいれば、違う職業から転職し、または定年退職後、刀剣商・古美術商となった方もいる。『刀剣界』で紹介された千野邦雄さん、天野智弘さん、寄稿してくれた川口博さんらがこのタイプだ。

名和氏は語った。「誰もが自分が集めた品々を店という箱の中に並べ、その中心に自分が座ってみたいものなんですよ。ところが開店して一年や二年で腕利きの業者たちに珍しいものを抜かれ、気づけば店内にはガラクタばかりが残っている、そんなことになりかねないんですよ……」と。

千野さん、天野さん、川口さん、名和氏は語った。「誰もが自分が集めた品々を店という箱の中に並べ、その中心に自分が座ってみたいものなんですよ。ところが開店して一年や二年で腕利きの業者たちに珍しいものを抜かれ、気づけば店内にはガラクタばかりが残っている、そんなことになりかねないんですよ……」と。

どうだろうか。明治生まれの亡き古老からの忠告と受け取ってこれれば、俺はうれしい。

四十歳代時分の俺に、ある刀装具愛好家がかつての網屋惣右衛門の商法の話をしてくれた。この方も直接見聞きしたわけではなく、さらに古い誰かから聞いた話のようだ。

網屋の店頭には最低限のものしか置いておらず、まずは客の嗜好を伺う。何度か足を運んでくれた客を奥の「あがり」に通し、そこで見せる商品の十中八、九が客に収まるという。

俺は「これだーっ!」とばかりに、少しばかり珍しい、または優品風だと思ふものを冬支度する蟻のようにコツコツと職場の奥にしまい込んだ。実はこれは功を奏した。客にしてみれば掘り出し物感、プライベート・コレクション感があつたのだろうか。さてそれから十数年後、ここから話は俺の失敗談に転じていく。

東銀座にあった職場はある時最大のピンチを迎える。大家さんが土地を売ってしまい、俺をそこから剥がして再開発か転売したい不動産業者との争いとなる。裁判沙汰という言葉があるが、沙汰というくらいだから、普通の人は人生で一度経験するかしないかの事態だろう。それを経験させてもらうことになる。

被告となった俺は、雇った弁護士と不動産鑑定士に丸投げをして顔も見せず、地方都市でカメラ屋と薬局をチェーン展開する原告から訴状を受け取った。

「被告の店舗に来る客は、被告の人柄、並びに眼力、知識に触れて来るのであつて……」

おいおい、そんなに褒めてくれないよ、照れくさいよ。と思ひ、さらに先の文章に目をやる。「店頭においてある商品は少なく……従って銀座三丁目における店舗の重要性は被告にとっては大きいとは言えない。他の場所でも十分に成り立つ……」



千野さんのお店、良泉堂

俺はギャーッと叫んでいた。そして、参考資料として一般的な刀剣店の姿と称する写真は、何と!所狭しと商品を置く生野理事の店のホームページの抜粋だ。

今、移転した八丁堀の職場に生野理事が来ると、こう言う。「スベースがもったいないよ。もっと商品並べなよ」と。

在庫はお払い箱だし、甲冑を晒すとまざまざと記憶に残る商品なので、すぐに片付ける。生野理事のこの言葉と裁判のトホホな結果が、俺の中では確実にリンクしている。ナオミ選手、萩野選手、バイルス選手、心の傷って本当にあるんだね。

甲冑の話題

13

(一社)日本甲冑武具研究保存会

今回は東京国立博物館(以下、東博)の学芸員で、当会の会員でもある佐藤寛介氏の著書を紹介したいと思います。

今年の一月に東京国立博物館セクション『日本の甲冑』が発売されました。東博に所蔵されている甲冑を紹介する内容となっております。

この言葉と裁判のトホホな結果が、俺の中では確実にリンクしている。ナオミ選手、萩野選手、バイルス選手、心の傷って本当にあるんだね。

そんなことを思っていたら、昔感じたもどかしさを思い出しました。今から三十五年ほど前、僕が初めて購入した甲冑の本にも写真と印刷するコストも安くなり、また甲冑に対する理解度も進んできた。展示会の図録には甲冑マニアが喜ぶようなアングルの写真も多く掲載されるようになってきました。

しかし、神社・仏閣や博物館に所蔵・保管されている資料的にも価値の高い貴重な甲冑は、われわれのような部外者は調査ができなかったばかりか、権利関係のこともあり、昔よりも写真の掲載料が高騰しているようです。



新刊紹介 『鶴岡八幡宮の名刀』

源頼朝は鎌倉に幕府を開き、源氏の氏神である八幡宮の伽藍を整え、東国武士の守護神としました。その後、鶴岡八幡宮の加護を願い、將軍・御家人などから多くの武具類が奉納されました。それらの御神宝は一昨年、境内に開館した鎌倉文華館 鶴岡ミュージアムでの「鶴岡八幡宮の名刀―歴史に宿る武士の信仰―」で公開されています(催事情報参照)。開催に合わせ、頼朝の佩刀した太刀をはじめとする



る国宝・重要文化財指定品十八点、その他多くの名品を掲載した本書が発刊されました。定価三〇八〇円(税込み)。注文は書店または同ミュージアムまで。

刀剣・小道具・甲冑武具

目白 飯田高遠堂

代表取締役 飯田 慶雄

〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615

<http://www.iidakoendo.com>

刀剣古美術
三峯美術店

町田 久雄

埼玉県秩父市野坂町一十六六一二
西武秩父駅連絡通路町久ビル内
TEL 〇四九四二二三三〇六七
FAX 〇四九四二二三三〇六七

美術刀剣、小道具、武具類の
売買、加工及び御相談承ります

大阪刀剣会
吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二一七
TEL 〇六六六三一一二二一〇
FAX 〇六六六四四一五四六四

が高騰しているようです。

結局、子供のころに夢見ていたような本の実現は、さらに遠のいているようです。もっとも今時の小中学生には本は必要ないかもしれないですね。取りあえずネットを漁れば、フルカラーの甲冑をたくさん閲覧できます。

話がそれてしまいました。著者から「本書は東博のミュージアムショップで購入できます。東博の甲冑コレクションをまとめて見ることができるとは本書が初めてなので、多くの方々にご覧いただきたいと思っています」とのメッセージです。東博に行った際には、ぜひお手に取ってみてください。(一般社団法人日本甲冑武具研究保存会理事 佐々木亮)



河内平刀匠が鍛冶道場を開設

河内平刀匠が長野県埴科郡坂城町に開設された河内鍛冶道場において、六月二十八日、火入れ式が執り行われました。

お世話になった方々を多くお招きして執り行われる火入れ式ですが、コロナ禍のため、県内在住の宮入小左衛門行平一門と近隣の関係者のみで執り行いました。

河内刀匠はこれまで、宮入鍛冶道場傳習館にて作刀してまいりました。しかし、河内刀匠曰く、師匠である宮入小左衛門行平師の好意に感謝しつつも、いつかは鍛冶道場も独立しなければならぬという気持ちがいづも頭の片隅にあつたこと。宮入師の子息も修業開始から今年でちょうど五年であり、また自身の年齢も考え、このタイミングとなったそうです。

今年初めに工事が始まり、五月末に竣工。建物の工事はそれで終わりですが、刀鍛冶自身が耐火粘土で火床を作るなど、刀鍛冶自身でなければ

加減のわかりにくい重要な作業が火入れ式直前まで続きました。

火入れ式当日は、宮入小左衛門行平師の開式の辞に始まり、地元速素菱鳴神社の竹内宮司により御神事が執り行われました。

それから、火入れ式特有の火入れの儀に移ります。まず鉄の細い角棒を叩き、その変形熱によって熱くなった鉄から薄い木片に火を点けます。そして、その火で火床内の松炭に着火します。火をおこすと玉鋼を加熱し、向こう鎚で叩いて薄く延ばす「水圧し」と呼ばれる工程を行います。最後に薄く延ばされた玉鋼を赤めて水に入れる「焼入れ」をして、火入れの儀は終わります。

その後、宮入師と河内刀匠から挨拶があり、神聖な火入れ式が幕

を閉じました。通例ではこの後直会を行うことが多く、参列者からは直会を望む声もありましたが、今回はコロナ禍のため散会となりました。

火入れ式という神聖な儀式を終えた河内刀匠に現在の心境を聞いてみました。

「火入れ式が終わり、ほっとしております。自分一人の力ではなく、皆さんの支えがあつてようやくここまで来ることができました。今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願い致します」

ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

河内鍛冶道場 〒389-0603 長野県埴科郡坂城町南条四一〇八一 ☎〇八〇一九九七八ー九五二五

ブック・レビュー BOOK REVIEW

知られざる大坂武士の実像を描く

『武士の町大坂―「天下の台所」の武士たち―』

数田 貴 著 定価一〇〇〇円十税 講談社学術文庫

江戸時代の大坂といえば、天下の台所と呼ばれ、商人の町である、というのが相場で、歴史の教科書にもそのように書かれていた。

司馬遼太郎氏は「町人の共和国」と表現し、江戸の一〇〇万人の人口のうち、武家が五〇万人、それに対して大坂は六、七〇万人の人口のうち、幕府直属の武士二〇〇人程度、後の地元の武士は半分町人化していると述べている。

この書の著者数田貴氏はこの通説に疑問を持ち、大坂町奉行の日記や大坂版の武鑑などを徹底的に読み込み、武家人口を八千人程度と見積もっている。司



江戸後期の町奉行所といえは、大塩平八郎である。天候不順による不作と飢饉に喘ぐ庶民を横目に米を買い占めて巨利をむさぼる悪徳商人と癒着した悪い役人がまかり通る政道に抗議して拳兵した大塩平八郎。彼は大坂町奉行所与力であった。

馬氏の言う二〇〇人どころではない武家人口が想定されるというわけ。

確かに江戸に比べて武家の人口は圧倒的に少ないことは、司馬氏らの説の通りなのだが、しかし大坂城や大坂町奉行に詰める武士たちの存在は決して小さくはなく、彼らなしに大坂の町は成り立たないこと、そして大坂の武士と町の人々の四季折々の生活を細かに紹介している。歴史学者ならではの美に読み込める一冊である。二読を強く勧めたい。

数田氏の緻密で実証的な論考は江戸後期の町奉行新見正路の日記や、久須美祐明の日記に基づいている。

大塩と町奉行のやり取り、大塩の宿命のライバルというべき与力内山彦次郎の動向。そして、坂本鉦之助。この人物は大坂定番で荻野流の砲術家で、大塩方に決定的な打撃を与え、乱後、譜代に取り立てられた。坂本鉦之助は坂本孫之進の親族で、養子である。そして坂本孫之進は松平定信にその実力を認められ、浅羽主馬政庸とともに幕府の砲術師範として召し抱えられた人物で、筆者が「松平定信の寛政の改革と手柄山正繁」(『刀剣美術』七百六十四号)でも論考した、まさにその人であろう。

り悔しい。筆者は居ても立ってもいられず、この本の感想を書き、拙稿を数田氏に進呈した。「先生のご本をもっと早く読んでおくべきだったと深く反省しています」と書いて。返事は絶対来ない―そう思っていた。ところが十日ほど後だろうか、お返事を頂戴したのである！しかも「玉稿の考証の緻密さに驚き、今後同誌(『刀剣美術』)のごことである」を参考にする必要を教えられました。有難うございました」と書かれているではないか！そして先生も浅羽と坂本の江戸召喚に関心をもって調べており、それを同封の『大塩研究』八十三号(大塩事件研究会。二〇二〇年八月)に書いておられ、「ほぼ同じことを江戸と大坂で調べていたのではないかと存じます」ともあった。なんと謙虚で、爽やかな人だろう！

ご一読を、再度強く勧める次第。

■数田 貴(やぶた・ゆたか) 一九四八年大阪府生まれ。大阪大学大学院文学部研究科博士課程中退。関西大学名誉教授。現在、兵庫県立歴史博物館館長。日本近世史専攻。著書に『国語と百姓一揆の研究』『日本近世史の可能性』『近世大坂地域の史的研究』『男女の近世史』『大阪遺産』など。

新刊紹介 服部 鋳弥 『読書撃剣 男谷精一郎と平山行蔵』



江戸時代中期以降、太平の世に慣れ、士風軟弱となって、剣道もまた形式に流れて保守的となっていた。自己の流儀の伝統を温存するだけで、他流との切磋琢磨の

試合も禁止され、形を見事に演武すれば事足りるとする、云う所の華法剣術とよばれる時代であった。そのマンネリから脱却すべく、正徳年間に直心影流の長沼家によって面と小手の防具と竹刀の改良が工夫され、さらに五十年後の宝暦の頃、小野派一刀流から出た中西家で一段の改良と腹当て(胴)が追加されて、形剣術から面小手竹刀の撃剣の時代に入っていた。(中略)

この面小手撃剣の第一期ともいえるべき文政から天保期を中心に活躍したのが男谷精一郎信友である。剣道史上、剣聖とか、君子の剣と評された人物である。男谷が名人であったことは勝海舟の「追賛一話」をはじめとして山田次郎吉『日本剣道史』からすべての剣豪小説に至るまで書き尽くされている。これらの種本は高弟と思われる門人の誰かが書いて残した『男谷先生行状録、附平山行蔵伝』と『善行録、男谷先生行状の事外』(どちらも、ほぼ同内容ながら記事の量に多少の差がある)という

匿名の筆写本である。(以上、前書きより) 本書は、前書を誰もが読めるように全文を現代文とし、併せて同時代に活躍した著名な剣客についても考察したものである。「男谷精一郎と刀剣」の一項を設けているのも、愛刀家の故であろう。昭和十三年、茨城県古河市生まれ。現在、青山学院大学剣道部名誉師範・古河市剣道連盟顧問。定価一九八〇円(税込み)。注文は書店または青山ライフ出版(二〇三三六六八三―八二五二)まで。

NEWS & TOPICS 卓絶した職方の技法でまとめた DVD が新発売

DVDメーカーとして刀剣の魅力を全国の販売網に展開している(株)クエストから「日本刀 究極の美 鍛錬・研磨・拵・刀装具」名刀の出来るまで」が発売された。内容は、匠の技に見る日本刀の製作プロセスを、刀匠の鍛錬そして研師・白銀師・鞘師・塗師・金工・柄巻師といった職方の優れた技法でまとめたもの。



英語字幕の表示機能により、刀剣に興味があり、造詣を深めたい海外顧客へのニーズにも対応。また、昨今のブームで刀剣に関心を持つ若い方や初心者にも、日本刀がどういった意匠工程を経て美しく完成していくかをわかりやすく見てもらえる一枚になっている。定価は税込み五五〇〇円。全国の書店、家電量販店、CDショップ。

■(株)クエスト 〒169-0007 東京都新宿区高田馬場一―二八―〇 三慶ビル3F ☎〇三―六三八〇―三〇三二 http://www.queststation.com

私のお店 前田 幸洋

この度、私が経営している小さなお店の紹介記事を承りまして、戸惑うばかりです。

現在の店舗は立派な看板、門構えもございませんが、以前は看板を上げ、商品を展示しましてお客さまをお迎えしておりました。十年ほど前より海外輸出に重点を置くようになりましたので、近頃の商店街の一角に店舗を移転し、昔から来店して下さるお客さまをお相手にひっそりと商うようになりました。

表札のような小さな目立たない看板と、ドングリの木に隠れるようなお店。仕事帰りや散歩の途中に立ち寄り、刀剣・古式銃・書籍を自由にご覧いただき、お客さま同士の歓談を楽しまればと考えております。私ももともとサラリーマンでしたので、リフレッシュできる場所、隠れ家的な気負いのない空間に憧れていたものです。



もっとも、接客しているのは主に当店の人気者のワンコのガンちゃんですが……。 このように書いていますと、暇を持て余した道楽のような商売に見えてしましますが、本業の刀屋としては、輸出を重きに置いておりますので、海外のお客さまの生活時間に合わせてリアルタイムな取引を心がけております。

ですから、ワンコも熟睡している夜明けに仕事をしまつのが日常になっております。

商習慣や文化の違いを乗り越えての商売は摩擦などもあります。が、コロナの影響で航空貨物が停止した時など、多くのお客さまがキャンセルもせず文句も言わず、発送が可能になるまで待ってくださり、その上に、自国の方がコロナで酷い状況なのに、私の心配を

して、下さり心温まる便りを頂くような嬉しいお付き合いは大切な宝物です。 振り返れば、東南アジアで起業して紛争地帯を走り回り、その後帰国して会社員。書店も手掛け現在に至るも、人との良き出会いによるものと思います。これからもご指導・鞭撻を頂ければ幸いです。 ■美術刀剣前田 〒577-0826 大阪府東大阪市大連北二―四―五 ☎〇九〇―一九六二―一八一九六

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
(株) 日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

日本刀・刀装具
販売・買取
美術刀剣松本
松本 富夫・松本 義行
TEL.04-7122-1122
千葉県野田市清水199-1 刀剣松本 検索

刀 剣 界

質問箱

第十二回
豊後高田刀・その二

回答者 ● 冥賀 吉也



今回は室町期の平高田を中心に述べましたが、今回は新刀期の藤原高田について説明しましょう。

◎藤原高田とは

藤原高田とは、桃山以後の新刀期に豊後高田に住した刀工および刀剣類を言います。

古刀期の「高田住」は一種のブランド名で、豊後国の広範囲で作刀されたものを含むと説明しましたが、藤原高田は旧高田村の地で作刀されたものです。

銘文の中に「豊州高田住藤原・統行」「藤原・統景」「豊州高田住大和守藤原・忠行」など「藤原」を切銘しているところから、そのように呼ばれています。

一般に高田では、平というのは古刀、藤原というのは新刀と言いつつ、区別しています。

新刀高田の祖は統行と言われていますが、文禄年間から寛永の初めごろまでの約三十八年間は、高田鍛冶の空白時期でもありました。実質的に藤原高田が繁栄したのは、寛永九年（一六三二）以降で、寛文・延宝・享保・元文ごろまでの約一〇〇年間です。

なぜ空白期間が生じたかは、次の三つの要素が考えられます。

①大友氏の滅亡

②秀吉および家康による豊州地区の分割支配

③慶長元年（一五九六）の別府湾の大地震

◎大友氏の滅亡について

守護大名大友義鎮（宗麟）の最盛期は豊後のみならず、豊前・筑前・筑後・肥前・肥後の六力国を領有し、なお日向・伊予に対しても威を振るった時代でした。しかし天正六年（一五七八）、日向での「耳川の戦」で島津氏に大敗した後は、徐々に勢力が衰え始めま

した。天正十五年春には秀吉が九州に出兵し、平定します。

その年の六月十一日、大友宗麟は死去します。秀吉により大友氏の領地は宗麟の子義統に安堵されますが、義統は秀吉の命により文禄の役に参加、敵前逃亡の罰により文禄二年（一五九三）五月に改易されてしまい、大友氏は滅亡しました。

◎秀吉・家康による分割支配

文禄三年、今まで大友氏の支配下にあった豊前・豊後の広大な領地は秀吉の命により細かく分割され、さらに関ヶ原の戦で勝利した家康によっても同様な策が取られました。家康の時の分割状況は左記の通り。

藩は中津藩十万石、岡藩七・五万石を筆頭に、二万石を中心に八藩、さらに領すなわち飛地として熊本藩領二・三万石、延岡藩領それに直轄地を含めて七つに細分割されました。

大友氏滅亡により、大友氏および大友氏支配下の武将たちの注文に応じて作刀していた刀工たちは注文主を失い、他国に移住転出、または農具鍛冶に転職あるいは帰農したものと考えられます。

わずかに豊後ににとどまり作刀された刀の中で、現在、裏年紀があり確認されたものは豊州高田住藤原統景／文禄四年二月日の刀を含め、慶長五年紀の行長、慶長七年紀の統行の刀など、七振前後にすぎません。

裏年紀はありませんが、慶長期の作と思われるものもさほど多くは残されていません。それらの地刃の作風は藤原高田とは異なり、古刀期の平高田の作風であります（刃文①②参照）。

前述のように大友氏一国支配で

あった豊州国が、秀吉・家康に細分割されたことにより、当時大混乱があったことが想像できます。人や物の往来が不自由になったばかりでなく、例えば高田鍛冶の中心地であった旧高田村は、慶長六年からは加藤清正の肥後領であったのが、寛永九年に細川家に代わっています。このような混乱も豊後地区から刀工がいなくなった要因の一つです。

◎別府湾の大地震

さらに、慶長元年に別府湾内で発生した大地震は、豊後地区全体に大被害をもたらしました。この時に発生した大津波は高田地区にも到達し、刀工たちの鍛冶場を全滅させたことが想像できます。

このように、文禄から慶長・元和にかけての約三〇年間は豊後鍛冶にとっては全く不遇の時代であったことが想像でき、いわゆる空白の時代であったのです。

◎藤原高田の時代

その後、寛永のころから豊後地区は全体に落ち着きを取り戻してきました。寛永九年より、高田鍛冶の中心であった旧高田村を含め、この一帯を肥後熊本藩の飛地（二万三千石）として細川家が治め、明治期まで続いています。

旧高田村は刀鍛冶にとって好条件の場所であったばかりでなく、室町期から続く刀工たちが残っていました。このころから、藤原高田は元禄・享保ごろまで大繁栄したのです。そこには当然、細川家の庇護がありました。

嘉永二年（一八四九）ごろの手記に鶴崎郡代（細川家領）に差し出された覚書が残されており、そこには寛永ごろからのことが細かく記されていて、そのことを証明しています。

細川家は、高田勝衡はじめ六家に名字帯刀を許し、さらに大和守忠行には十人扶持、輝行に四人扶持を与えて十分として扱い、数々

の面で庇護しています。

◎藤原高田の刀工

次に、藤原高田の刀工たちについて触れてみましょう。

新刀期の代表的刀工と言えは、国広・虎徹・真改・助広・初代忠吉等々誰でも知っている「最上作」の刀工ですが、藤原高田には有名な刀工はほとんどおりません。『日本刀工辞典（藤代義雄著）』では刀工の位列を最上作・上々作・上作・中上作・中作の五段階に分けていますが、藤原高田の中で最上位が四番目の中上作で、行長・行光・友行（初代）・統行・実行・本行（松葉）の六名のみであり、あとは五番目の中作が忠行・尚行・統景・国行・輝行・実行（二代）ら一〇名程度で、その他は番外です。

しかし、位列は低いながらも、良業物に行長、業物には友行・統行・国行がおり、藤原高田は「折れず、曲がらず、よく切れる」ことを物語っています。

話は少々逸れますが、日清・日露の両戦争において、豊後刀は武器刀として高く評価されました。昭和の太平洋戦争時には、軍刀の中身として豊後刀の需要が多くあったとのこと。われわれも時折、軍刀の中身に豊後刀が入っているのを見かけますが、まさにその証であります。

藤原高田の刀工群は、地方の鍛冶としては肥前刀と同様、大いに繁栄した集団です。当時から武用刀としてよく切れることが人気となり、豊後地区はもちろん、九州の各藩から引き合いがあり、さらには肥後領内の鶴崎港から瀬戸内海沿岸の各藩に輸出されたものと考えられます。

◎藤原高田の作風

藤原高田の作風を部分ごとに見てみましょう。

《姿》各年代に沿った体配ですが、相対に鎧が高く、鎧幅が広めで、棟も高く、平肉の付きすぎた傾向があります。さらに鍔元で大きく反り、先細りという特徴もあります。

《地鉄》小板目よく詰むものが多い。鍔の上部に大肌が出る場合があります。鎧地は柵となります。また、元禄以前の作にはまみ映りの立つものがあり、この点が肥前刀と異なる見所です。

《刃文》小沸出来の直刃（④⑥参照）が最も多く、湾れに尖り風の互の目のもの③、湾れに互の目を三つほど交え繰り返すもの⑦、小沸出来の互の目乱れで上総介兼重風のもの⑧などがあります。まみ焼き出しのあるものもあります。そして、どの刃文も匂口が帯状となる（肥前刀に似た）ところがあり、大きな見所です。しかし、当時流行した瀟灑刃や匂本位の華やかな丁子刃は見られません。

《帽子》小丸に返るものが多い。返りが深く、まみ先が掃き掛け、返りの止めの部分がやや劣ります。

《中心》鍔目は勝手下がりが多く、中心尻の棟方は浅く、刃方の方が深い独特の形となり（⑤参照）、一見片削ぎ風に見える中心尻となります。

◎無銘極めの藤原高田

室町期の平高田や高田極めの刀剣類は非常に多く見られますが、藤原高田極めのものは少ないです。なぜならば、新刀期の大磨上げ無銘はきわめて少なく、生ぶ無銘の刀剣類もあまり多くはありません。

藤原高田に極める場合、一見肥前刀の脇物に見え、前述の藤原高田の特徴を兼ね備えた刀剣類の場合が多いです。

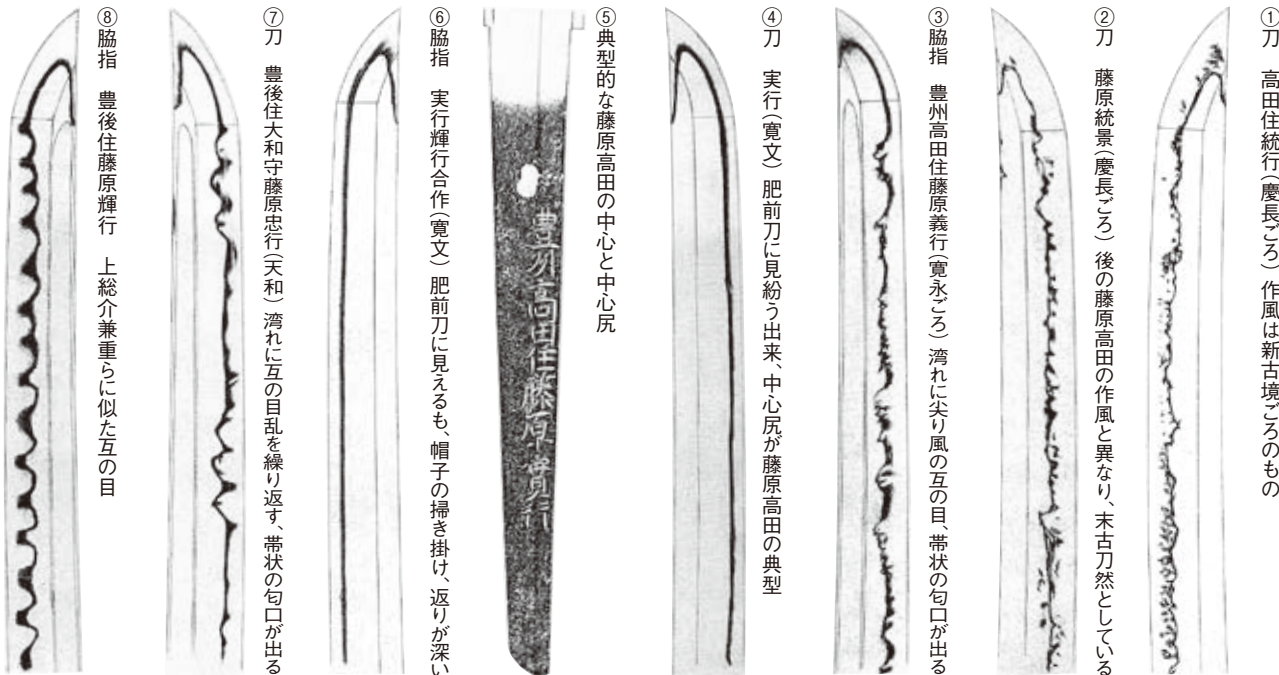
《参考文献》

『日本刀工辞典 新刀編』

『図説豊後刀』

『室町期からの大分県の刀』

藤原高田鍛冶に見るさまざまな刃文



中原信夫『室町期からの大分県の刀』より転載

■ 臼杵市歴史資料館

〒875-0052 大分県臼杵市大字市浜808-1

☎0972-62-2882

https://www.city.usuki.oita.jp/categories/shimin/kyoiku/rekishi/rekishi_shiryokan/

不滅の豊後刀―大友から臼杵藩の刀剣―

豊後刀は「大分の刀剣」の総称ですが、若干の例外を除き、主として高田庄（現在の大分市鶴崎地区）において製作されました。その地で活躍する刀鍛冶は、中世は守護大友氏とともにあり、近世は肥後熊本藩領となったため、その支配を受けました。一方、近世には豊後各藩でもそれぞれ作刀を行っており、今回の展示は、中近世を通じた高田庄の刀剣と、地元臼杵藩の刀剣を対象とします。

会期：9月25日(土)～12月20日(月)

刀 剣 界

イベント・レポート

姫路市立美術館「日本の心象―刀剣、風韻、そして海景」

刀剣の新たな魅力を訴求する表現を見て

姫路市立美術館で開催していた展覧会「日本の心象―刀剣、風韻、そして海景」において新しい日本刀の表現法を体感した。

一般財団法人林原美術館(岡山)の共催ということで、同館所蔵の重要文化財、太刀 正恒、近包、末守、長光など久しぶりに拝見する名品七点、京都国立博物館協力の下で展示となった短刀 国行や長曾祢虎徹入道興里、繁慶など各時代の著名刀匠の優品が九点、同じく刀剣博物館から国宝、太刀 国行をはじめ五点、そして姫路市美術館より二一点、個人蔵七点の計四九振が揃った。

国指定品を筆頭に各美術館から集結した優品の数々は、既に多くの方が各展覧会などで拝見済みと思われるので割愛し、それ以外の気になった幾つかの作品を抜粋すると。室町時代の播磨・美作・備前三力国の守護であった赤松政則、江戸時代中期の姫路城主・酒井忠恭、そしてその子忠以らが自ら鉦を振るって作刀したと言われる大変珍しい所謂「貴人打ち」の三振や姫路ゆかりの刀工宗重、同国出身で後に水戸光圀に招聘され



刀剣の最も古い時代を現出

たという大和守吉道、池田侯より左文字に倣って「右」の字を下賜された鈴木宗栄、手柄山に住した氏繁・正繁、同国出身で後に大坂に移住したソボロ助広・忠綱、そして表裏に重厚な真の俱利伽羅彫が添えられた江州野州郡玉造庄吉次(鞍馬関吉次同人)や、赤松義村が魚住実安に贈るため注文した次郎左衛門尉勝光・左京進宗光合作の脇指、結びに登場する当地にて活躍する現代刀工、桔梗隼光、高見國一、明珍宗裕三者による作品群などはすごぶる出来が優れた名刀であった。

展示の名刀について詳述して

だが、本展覧会における最大の特徴として筆者が注目したのは、ポスター、写真にあるように、現代美術作家、杉本博司氏の現代アートと日本刀とをコラボレーションした新しい形態の展覧会であるということである。写真、彫刻、インスタレーション、演劇、建築等々、多岐の分野にわたり、歴史と存在の一過性をテーマとしている同氏の「海景 シリーズ」のみならず、氏の所蔵する古墳出土の頭椎大刀や鎌倉時代の三鈷杵に刀匠大野義光作の剣、仏師滝本光国作蓮台を合わせた三鈷剣などは、まさに悠久の時の流れを一所に凝縮した素晴らしい構成であり唸らせる選別であった。

前述した多くの要素を凝縮して選ばれた作品群であるが、各作品のキャプション(説明文)は極限まで削られ(というか通常われわれが慣れ親しんだ展覧会で見られるような解説は全くない)、自然鑑賞者の意識は作品自体に集約され、そこに何を見るかは鑑賞者の美意識により無限となる空間が創

出されていた。

近年、杉本氏の活動に魅入られ、大いなる期待を持って向かった展覧会であったが、まさに期待通りの内容に感動であった。本展覧会に足を運んだ来場者には刀剣愛好家もそれ以外の美術愛好家も多くいたであろうが、どのような感銘を受けたであろうか。今後の刀剣界のあり様に多くの指針を示した



玉鋼の涼やかな音色を奏でる明珍火箸風鈴

展覧会であったのではなからうか。

なお、会場中盤に設置された明珍兄弟による明珍火箸(兵庫県指定伝統工芸品)が光と音のインスレーションとして展開されており、その美しい音色に惹かれて購入した作品が現在、当店の玄關にて涼しい音色を奏でお客さまと私の耳を奏しさせてくれている。(飯田慶雄)

旅のつれづれに 11

仙台出張、ついでに一関・石巻へ

またしても、H骨董美術館の鑑定旅行に行ってきました。もう全国至る所、どこが新型コロナウィルス緊急事態宣言なのか、まん延防止等重点措置なのかわからない状態……。

今回は仙台二泊と石巻一泊です。しかしながら、小生は仙台に泊まる日の昼に一関市博物館に行ってきました。東北新幹線で仙台から三駅目「一関」で下車し、タクシ

で二〇分ほど着きます。田村家一関藩は伊達藩の支藩であると同時に、幕府の命令によって仙台藩から三万石を分知されて成立した藩でもある。そのため将軍の直臣として扱われたので、外様大名ながら奥詰め将軍側近として仕えたこともあった。

だからであろう、松の廊下で刃傷事件を起こした赤穂藩主・浅野長矩を預かり、江戸上屋敷内で切腹させたことでも知られている。

そう、東京美術刀剣商業協同組合(東刀会の会場)からもよく見える「切腹最中」を売り出した新正堂は、この故事にちなんでいるのです。

一関市博物館では「舞草刀と刀剣」のコーナーがあり、重要文化財、生ぶ在銘の舞草が展示されていました。当館の舞草や宝寿についでには、眞賀先輩がかつて本紙に素晴らしきリポートを書かれていたので、こちらをお読みください。

ほかにも、一関藩は蘭学において優れた人材を輩出し、中でも大槻玄沢の『解体新書』が取り上げられていました。また藩政後期に、関流和算が農民中心に浸透したそうです。小生には難しくてわかりませんでした。

しかし、幕末になると保守反動の傾向が強まり、蘭学者は十分な活動することが許されず、和算も明治維新後の新しい経済体制に

催事情報

■刀剣博物館

〒130-0015 東京都墨田区横綱1-12-9 ☎03-6284-1000
https://www.touken.or.jp/museum/

特別重要刀剣等指定制度五十周年記念
「日本刀―珠玉の名品展」

本協会の主軸たる事業の一つに審査事業があり、中でも特別重要刀剣等の指定制度は、重要刀剣等指定品の中から一段と傑出した出来映えと保存状態の優れた作品を厳選し指定するものです。

それらは我が国の美術工芸史上、資料的・歴史的価値がきわめて高く、国認定の重要美術品に相当する、もしくは国指定の重要文化財に準ずる価値があると判断されるもので、本協会審査事業の中でも最高位に位置するものであります。昭和46年を第1回として、本年はその指定制度が発足して50年の節目を迎えました。その間、隔年で厳正なる審査会を実施し、刀剣1143口、刀装59点、刀装具80点が指定されています。国の指定制度において未指定でありながらも、確実に後世へ伝えるべく保存の措置を講じる必要があると認められる作品を指定する、国の指定・認定制度を補う大変重要な審査制度といえるものです。

この度、指定制度50周年を記念し、第1回から直近の第26回までに指定された作品の中から各時代・各流派の秀抜な作品を取り揃えました。美術工芸品としての刀剣・刀装・刀装具を通じ、日本が世界に誇る日本刀文化の粋をあらためて概観するとともに、当指定制度が半世紀にわたって果たしてきた意義を再認識する展覧会です。

研ぎ澄まされた日本刀、ならびに洗練の極みである刀装・刀装具をどうぞ心ゆくまで鑑賞ください。
会期：9月25日(土)～12月22日(水)



丸の跡地だそうです。

おいては主導権を握れないまま、やがて洋算に取って代わられるという残念な結果になってしまいます。仙台に戻って、夕食まで時間があるので、二日間ともGというコの字カウンターのみの古い居酒屋に行っていました。

閑話休題。仙台の鑑定会場は仙台城(青葉城)址の仙台国際センターという国際会議場で、城内に入ってすぐの所にあります。二の

三の丸跡から本丸跡へ。有名な仙台のシンボル、伊達政宗公の騎馬像があります。『剣槍秘録』を拝見すると、仙台藩には名刀がかなりあったはずなのに、現在の伊達家・仙台城には刀屋としての面白みがいま一つ感じられない。

二日目の仙台鑑定も終わり、仙台国際センターから車で一時間半、石巻グランドホテルに着。食事を取るべく街に繰り出すと、海沿いであろう繁華街は新築の店ばかりだし、その海の方角には巨大な堤防があるばかりで、「海」は見えない。

翌日、朝食の後、タクシーで石巻の跡地だそう。その後、三の丸の跡地をたどって仙台市博物館へ。ここは支倉常長の慶長遣欧使節に関連するものが充実し、また、伊達政宗所用の当世五枚胴具足もある。『スターウォーズ』のダース・ベイダーの衣装デザインの基になったのがこれで、制作用の参考資料を米国に送ったのは仙台市博物館だったそうです。

ノ森萬画館(石ノ森章太郎の世界が体験できるマンガミュージアム)に行っていました。そこは昨日の堤防の向かい側、北上川河口に浮かぶ中瀬にありました。こちらでもコロナ禍の影響により、一年半の休館を余儀なくされています。帰りのタクシーで通りかかった旧タイル張りで、丸窓・アーチ窓を持つ三階建てのビルディングは、旧観慶丸商店という昭和五年にできた石巻初の百貨店だったそうです。ここも大震災に遭ったのに、負けずに残った建物ではありますが、もはや石巻の文化に関する展示施設になっています。

東日本大震災から十年の時が過ぎているのに、まだたくさんの被害の跡が残っています。テレビの映像でしか知らなかった小生は、ただびっくりするばかりでした。

今回、最後は話がちょっとハズレてしまいましたが、被害の大きさにあらためて驚かされるとともに、天災はいつわれわれの所に来てもおかしくないのだと思いまし

(持田具宏)

催 事 情 報

■サントリー美術館

〒107-8643 東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階
☎03-3479-8600 <https://www.suntory.co.jp/sma/>

刀剣 もののふの心

わが国では、刀工の優れた工芸技術と武家の美意識を背景として、古代、中世以降、さまざまな名刀が生み出されてきました。近年、日本美術に対する関心が高まる中で、特に刀剣は注目を集める分野と言えましょう。

サントリー美術館は、1961年の開館以来「生活の中の美」を基本理念として活動を重ね、本年秋に60周年を迎えます。日本の絵画工芸を見ると、大名家の姫君の婚礼調度から民衆が使用した日常の飲食器、文房具に至るまで、身分階層を問わず、それぞれの暮らしの中で洗練された機能と美しさが息づいています。当館が開催してきた展覧会においても、歴史に名を連ねる武将に関連する美術や史料を多数展示してきましたが、刀剣や甲冑武具こそは、言うまでもなく武家の人生や暮らしにおいて大切にされた根幹を成すものであったと言えます。

この展覧会では、京都や近畿を中心に、由緒正しい神社や崇敬を集めてきた寺院に奉納され、伝来した貴重な刀剣を一堂に集め展示します。それぞれの刀剣には、所持した武将とその英雄譚、鍛え上げた刀工、守り伝えた人々などについて、さまざまな伝承が大切に受け継がれてきました。

サントリー美術館が所蔵する狩野元信筆「酒伝童子絵巻」においては、武勇で名高い源頼光が率いる渡辺綱などの四天王が活躍します。今回の展示では、これらの刀剣にまつわる伝説についても、絵画や史料も加えてその意義を深く掘り下げます。さらに、臨場感あふれる主要な合戦絵巻や屏風によって戦に赴く武家のいでたちをご覧いただくとともに、調馬や武術の鍛錬など、日々の暮らしぶりなどにも着目し、武家風俗を描く絵画や史料を展示します。

この展覧会が、古代から中世、近世と続く我が国の歴史において、多くの人々を魅了してきた刀剣文化の奥深さや、武家の心に培われた凛々しい美意識を振り返る機会となれば幸いです。

会期：9月15日(水)～10月31日(日)



■致道博物館

〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18
☎0235-22-1199 <https://www.chido.jp/>

藩主の宝、藩士の宝

令和4年、元和8年(1622)に酒井家が庄内に入部して400年を迎えます。本展は、その節目に記念事業に先立ち開催するプレ企画展です。

旧藩主酒井家はじめ、旧庄内藩士の家に伝来する武具や掛け軸、茶道具類を出品し、当地の武家文化を紹介します。また本年は戊辰戦争後に庄内藩士が刀を鋏に持ち替えて松ヶ岡を開墾してから150年の記念年に当たることから、松ヶ岡開墾場に伝わる品の特別出品も行います。

会期中は、文化庁の「ARTS for the future! (コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業)」の採択を受けて、「刀剣乱舞-ONLINE-」とのコラボや黒川能上演、土曜講座、およびギャラリートーク等の実施を予定しています。

会期：9月3日(金)～10月19日(火)



会場によって休館日が異なります。事前に確認の上、お出かけください。
現下の状況で入場制限もありますので、それぞれのホームページをご覧ください。

■星と森の詩美術館

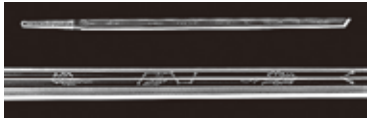
〒948-0101 新潟県十日町市稲葉1099-1 ☎025-752-7202
<http://www.hoshi-uta-m.jp/>

古作を「写す」

工芸の世界においては古作を写す、いわゆる写し物を作ることは古くから行われています。それは、単にレプリカ(複製品)を作るということではなく、写すことで時代を超えた先人の技や作風を学び、学んだものを自作に還元して、自身の作域を広げ、オリジナリティに奥行きを加えていくことに通じます。

現代の刀工もまた古作に学び、技術を、作風を深化させてきました。今展では、隅谷正峯(1921-98)、天田昭次(1927-2013)両人間国宝をはじめとする現代刀工が作った古作の写しと、各刀工の個性が光る作品を併せて展覧します。

会期：8月6日(金)～9月26日(日)



天田昭次作 国宝七星剣写し

■備前長船刀剣博物館

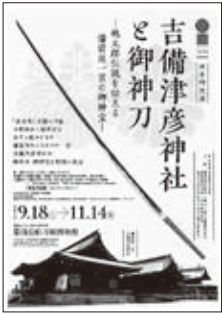
〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船966 ☎0869-66-7767
<https://www.city.setouchi.lg.jp/site/token/>

特別展「吉備津彦神社と御神刀―桃太郎伝説を伝える備前国一宮の御神宝―」

刀剣の歴史は古く、神話の中でも多くの場面で使用されています。例えば、スサノオノミコトが十握剣で八岐大蛇を退治する話や、ヤマトタケルノミコトが天叢雲剣によって危機を乗り越えるなど要所において登場してきました。そのため刀剣類は勇気や武力の象徴として尊ばれ、信仰の対象として御神体や御神宝として崇められてきました。

備前刀の聖地である備前国の一宮として篤く敬われた吉備津彦神社を例に、信仰における刀剣の役割の一端について触れていきます。

会期：9月18日(土)～11月14日(日)



■鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53 ☎0467-55-9030
<https://tsurugaokamuseum.jp/>

特別展「鶴岡八幡宮の名刀―歴史に宿る武士の信仰―」

鉄の最高傑作と呼ばれ、日本のものづくりの始まりとも言われる刀剣は、武器としてだけではなく、神霊の宿るものでもあるとされ、当宮では源頼朝創建以降、武士の信仰を集めた証として多数の刀剣が奉納されている。本展覧会は国宝である「沃懸地杏葉螺鈿太刀」、太刀「正恒」や重要文化財である明治天皇奉納の太刀「国吉」、北条氏綱奉納の太刀三口など、鶴岡八幡宮に伝わる鎌倉殿ゆかりの名刀を半世紀ぶりに公開する。また名刀に並ぶ時の武将ゆかりの品なども展示(展示替えあり)。国宝6点、重要文化財12点を含む65点の神宝類が800年の歴史に宿る武士の信仰を物語る。

会期：9月1日(水)～12月5日(日)



「新作日本刀証明証」の発行について

公益財団法人日本刀文化振興協会では、現在活躍中の現代刀作家作品に対し「新作日本刀証明証」(以下「証明証」と表記)を発行しています(対象作品：太刀・刀・脇指・短刀)。この証明証には、海外の刀剣ファンのために英語表記が加えてあります。

戦後、現代刀は刀職者のたゆまぬ努力により技術や美術性が着実に向上し、これまで刀匠の重要無形文化財保持者が6名にもなり、現在は、またさらに魅力的な作品を製作しています。そのような時代背景から、特に現代刀作家作品は確実に正真であることを証明するものでなくてはなりません。その意味でも、この証明証が今後ますます現代刀の貴重な資料となってまいります。

現代刀を愛好される皆さま、刀剣商の皆さま、また刀職者の皆さまにとりまして、信頼性と価値を高める基準となる『新作日本刀証明証』を活用していただければ幸甚に存じます。

★証明証発行までの具体的な流れ

- ①証明証発行を希望する方(既に現代刀を所有されている方、現代刀作家ご自身など)は、一度、当協会にお問い合わせください。その都度、受付日程・受付場所等をご案内します。その上で、お刀をお預かりし、作品の各種測定を実施し、そのデータを基に当協会より「新作日本刀証明証」を発行します。登録後、「新作日本刀証明証」は専用ケースにお入れしてお渡しします。※証明証発行料：1振につき3万円(＋消費税)
- ②現代作家の皆さまへの確認作業は当協会が行います。

既に実績のある作家については、比較的に短期でご回答できます。なお、ホームページにお名前の記載を希望しない作家(刀匠)の方もいらっしゃいますので、証明証の発行が可能かどうか不明の際は当協会にお問い合わせください。こちらで確認します。

- ③将来、照会が必要な場合もお問い合わせください。新規発行と同様の現物データを撮り、証明証に記載以外の詳細データをもって確認の上、回答します。※照会料：1振につき2万円(＋消費税)

★「新作日本刀証明証」を発行する意義

①刀剣商の皆さまにとって

「新作日本刀証明証」を付けて販売することにより、その刀への信頼性が確定します。また売買の際も海外および国内の偽物と、はっきりと一線を画することができて、最も重要な刀剣商の皆さまの信用を落とすことなくお客さまとのお取引ができるのではないのでしょうか。

②愛刀家の皆さまにとって

現代刀を持つ上で非常に重要になるのが、その刀が真正なものか否か。決して安価ではない刀に対して“偽物でない本物”である証明証があるということは、今後、その刀を持ち続ける上でも、あるいはほかへの譲渡を考える上でも非常に重要です。そうでなくとも本物を所有する喜びと安心感、愛刀家にとって大切な点ないのではないのでしょうか。

③作家(刀工)の皆さまにとって

精魂込めてご自身で作られた作品が、公益財団法人に記録として残ることになりますので、ご自身の手から離れた作品であっても後世にきちんと伝えていくことができます。古刀をはじめ数百年にわたって現存している日本刀の歴史を考えますと、今から記録を残していくことは公益財団法人として大変意義深いことだと考えています。また、残念なことでありますが、昨今の国内国外を問わず流通し出しています偽物対策としても大いに力を発揮し、ご自身の信用を落とすことなく安心して活動が続けることができるのではないのでしょうか。

【問い合わせ先】公益財団法人日本刀文化振興協会 事務局

〒115-0044 東京都北区赤羽南 2-4-7 鷹匠ハイツ 301号
☎03-5249-4440 E-mail: tbk@nbsk-jp.org



新作日本刀証明証(見本)